

質問調査結果から考える 学校改善・授業改善のヒント

学校改善
授業改善



かけ算の筆算は、
どんなふうに勉強を進めようかな...

学習の
見通し

かけ算の筆算は、これまで学んだこと
を使ってできそうかな。



筆算の方法が分かったから、一人で
たくさんの問題を解いてみたいな。

個別最適
な学び



まだよく分からないところがあるから、
友達と一緒に勉強したいな。

協働的
な学び

いいですね。学習の進め方を自分で
考えて取り組んでみましょう。



学習の
振り返り

難しい問題に挑戦できたので、かけ算の筆算が
好きになりました。明日も頑張ります。



筆算の方法を友達と確認しながら学習
しました。分かってきたので、家で復習
してみます。



家庭学習

個別最適な学びへ

協働的な学びへ

家庭学習へ

児童生徒質問調査（質問番号32）「5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」と平均正答率とのクロス集計を行ったところ、肯定的な回答をした児童生徒は、正答率が高い傾向があることが分かりました。そこで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童が自分に合った方法で学習できる授業づくりに取り組む、大崎市立古川第一小学校の実践を紹介します。

実践1『展開後半を児童自ら計画し、学習を進める授業』

～授業の難易度、自らの理解度に合わせて学習を計画することで、自分に合った学びを実現～

第3学年 算数科 「かけ算の筆算を考えよう」

本時の目標：乗法のきまりや性質を基に、工夫して計算することができる。〔知識及び技能〕

1 単位時間の流れ

導入

展開
前半

展開
後半

終結

<教師の姿>

学習内容を教える（一斉学習）

$$\begin{array}{r} 3 \\ \times 46 \\ \hline 18 \\ 120 \\ \hline 138 \end{array}$$

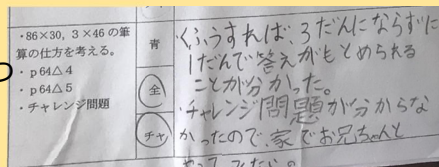
かける数とかけられる数を入れ替えて計算してみましょう。

児童の学習状況を見取り、支える



ポイント1 学習計画表

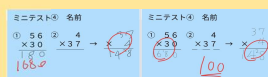
- ・児童が学習の見通しを持つ
- ・児童が課題を選択する



ポイント2 教材研究

- ・児童の実態に応じた問題を準備する
- ・学習を終えた児童への発展的な課題を準備する

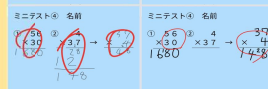
学習計画表の例



ポイント3 児童の見取りと声掛け

- ・ICTを活用し、進捗状況を把握する
- ・個に合わせた声掛けを行う

児童の考えを一覧で確認

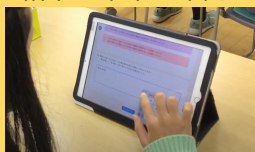


学習を振り返り、次時へつなげる

ポイント4 ミニテスト

- ・ICTを活用することで、即座に採点し、児童にフィードバックする
- ・教師も児童も理解度を把握する

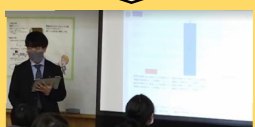
フォームを活用し、結果を素早く確認



タブレット端末で入力

ポイント5 振り返り

- ・教科に関する内容や学び方を振り返り、家庭学習や次時の学習に生かす



結果は自動で集計

<児童の姿>

新たな知識を得る



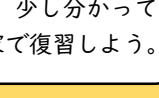
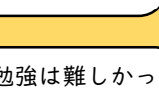
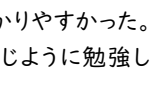
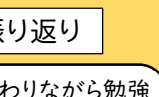
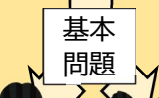
入れ替えて計算すると楽になるね。

児童が選択して学習する

基本を中心に

応用を中心に

友達と一緒に取り組む量や速さ



学習を振り返る

ミニテスト

振り返り



友達に教わりながら勉強すると分かりやすかった。明日も同じように勉強しよう。



今日の勉強は難しかったけど、少し分かってきた。家で復習しよう。

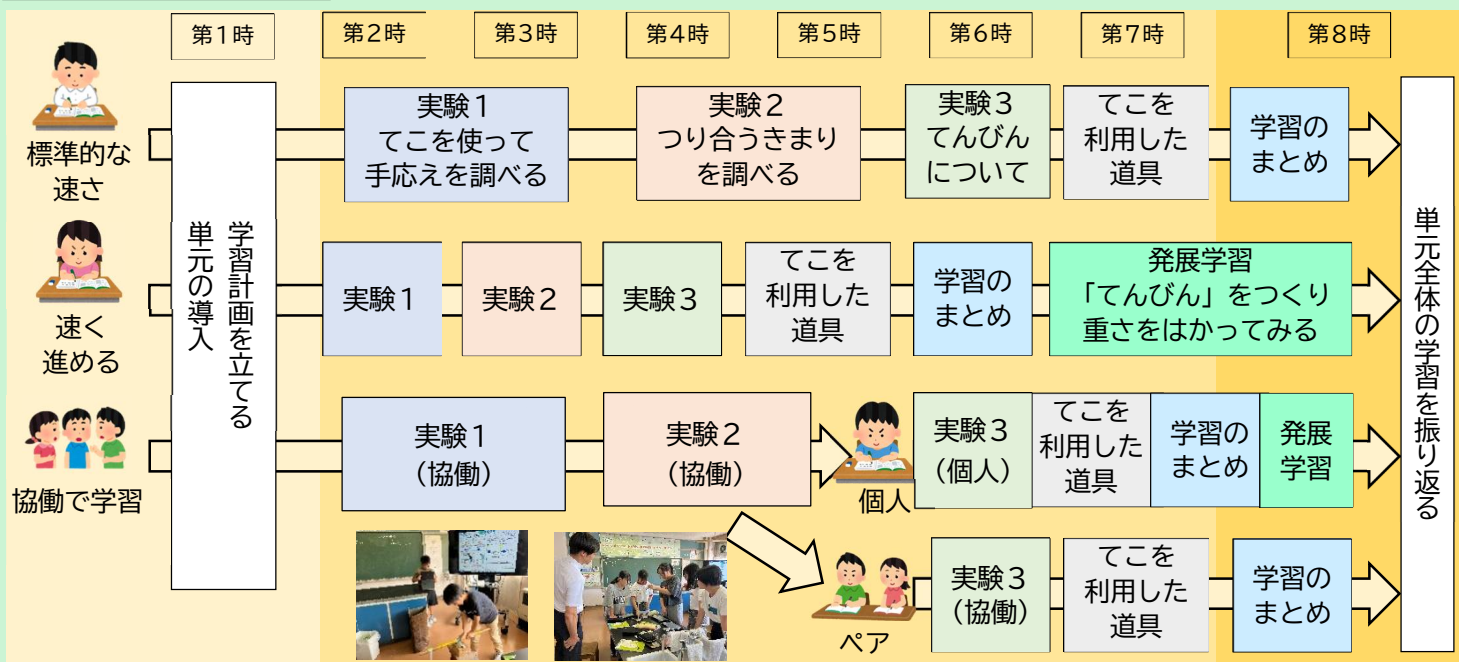
実践2『単元全体を児童自ら計画し、学習を進める授業』

～どのように、どこまで、誰と学習を進めるのか計画することで、児童が主体となった学びを実現～

第6学年 理科 「てこのはたらきとしくみ」(8時間)

単元の目標：(1) てこの規則性について、てこの働きを多面的に調べる活動を通して、てこの規則性について理解することができる。また身の回りには、てこの規則性を利用した道具があることを理解することができる。これらのことを理解するとともに実験などに関する技能を身に付けることができる。〔知識及び技能〕A(3)ア(7)イ
(2) てこの規則性について追究する中で、力を加える位置や力の大きさと、てこの働きとの関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(3)イ
(3) てこの規則性についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

単元全体の学習の流れ



☆単元構想のポイント

- ・指導事項の確認
- ・単元のゴールに向かうための、スモールステップ(スモールゴール)の設定
- ・個別で学習を進める、協働で学習を進める場の設定
- ・児童自ら学習を進めることができる活動(体験できる、試せる、まとめる等の安全にできる活動)の組み入れ
- ・児童の実態や興味・関心に応じた選択ができる学習コースの設定
- ・ICTの効果的な活用場面の設定(ワークシートや動画等の補助資料、学習のまとめ方等)
- ・児童が単元全体の見通しを持てる学習計画表の検討

1 単位時間の流れ

計画の確認

学習を進める

学習を振り返る

☆学習計画表

- ・単元全体の見通しの把握
- ・学習内容を選択
- ・学習の進み具合を調整

☆児童の見取りと声掛け

- ・ICTを活用し、進捗状況を確認、必要に応じた支援
- ・孤立した学びとならないよう児童と児童をつなげる声掛け

☆振り返り

- ・家庭学習や次時の学習に生かすための学習内容や学び方の振り返り
- ・児童の理解度を把握するミニテストの実施



《学習を支える環境づくり》

- ・互いを認め合える学級づくり
- ・児童の実態に合わせて選択できる、多様な学習コーナーの設置(いつでも学べる・見る・触れる・体験できる・様々な方法で試せる・動画を見る)
- ・興味関心を高める掲示物の作成



小学校・中学校の詳しい実践はこちらをご覧ください。

宮城県教育委員会
個別最適な学びに関するモデル事業
https://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-gak/kobetsu_saiteki.html



宮城県教育委員会
みやぎ「学びのDX」推進事業
<https://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-gak/manabi-dx.html>



主体的

対話的で

深い学び

学校改善

授業改善

主体的・対話的で深い学びの充実に向けて

協働的な学びの基盤をつくりましょう

～特別活動における話し合いに目を向けて～

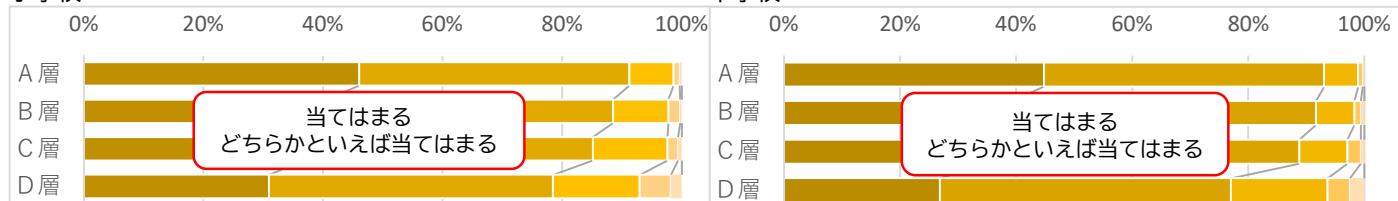
特別活動では、話し合いを通して、自己の考え方を協働的に広げ深めていくことを重視しています。集団活動を進める上での合意形成を図ったり、他者の考えに触れて多面的・多角的に考えたりして、決めたことを実践します。特別活動の話し合いを充実させ、それを生かして協働的な学びの基盤を築き、主体的・対話的で深い学びの充実を目指しましょう。

児童生徒質問調査33「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」と、A～D層（※）とのクロス集計結果を見ると、肯定的な回答をした児童生徒は、正答率が高い傾向があることが分かりました。

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない

小学校

中学校



※A～D層について 各層は宮城県（仙台市を除く）の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含む。

実践例 『パワーアップ大作戦』 学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画

話し合いによる合意形成を図り、児童生徒が主体的に準備・実践し、学んだことを振り返る過程を大切にしたい授業を展開していきましょう。児童生徒の自発的、自治的な活動を促し、自己有用感の醸成と学校生活を豊かに過ごす風土を培いましょう。

生活の中から自分たちで課題を見いだす

議題の決定



学級づくりアンケートの結果を見てみましょう。



グラフを見ると、なかよしパワーが落ちてきているね。

何かみんなでできることはないかな。

次の学級会で話し合おうよ。

話し合いのスタートは、児童生徒が「話し合いたい!」という思いを持つこと。アンケート等を活用し、議題を決める。

相手の意見を受け入れより高みを目指す

話し合い活動



今日は何について話し合う学級会ですか。

〇〇さんと考えが違うけど、そんな考えもあるのか!



学級がもっとパワーアップするにはどうしたらいいかな?

話し合う目的を明確にし、多様な意見に触れさせながら、合意形成を目指す。

新たな課題に気付く

振り返り



話し合いや活動について振り返りましょう。



いろんな意見が出たけど、うまくまとまってきた!

役割分担を変えたら、次は違うアイデアが出るかもしれないな。

振り返ることで、話し合い活動の有用性に気付かせ、次の課題解決に生かす。

話し合ったことが形になる 自発的・自治的な実践

みんなで決めたから、みんなが協力してくれるね。きょうまくいくよ。



実践の日まで準備をしよう! 私の係で、パワーアップのために工夫できることはないかな。

準備も実践も、児童生徒が主体となって進める。

児童生徒が自ら学び続けられるように支援しましょう ～自立した学習者の育成のために～

第2期宮城県教育振興基本計画（改訂版）アクションプラン（令和6年度～令和10年度）基本方向3 確かな学力の育成における目標指標では、「児童生徒の家庭等での学習時間」の目標値を、小学6年生：30分以上の割合90%、中学3年生：1時間以上の生徒の割合70%としています。

しかし、児童生徒質問調査の結果において、R5、R6と学習時間の減少傾向にあり、更に中学校では全国との大きな離が見られました。

～家庭等での学習時間の経年変化～

児童生徒質問調査（質問番号21）「普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」
小学校（30分以上） 中学校（1時間以上）

	R6	R5	R4
県	82.7	86.1	88.0
全国	81.6	84.0	85.2
かい離	1.1	2.1	2.8

全国以上に学習時間を確保しています。今後、家庭学習の質が向上するように働き掛けていくことが大切です。

	R6	R5	R4
県	58.2	59.4	66.2
全国	64.3	65.8	69.5
かい離	-6.1	-6.4	-3.3

R5、R6では、1時間以上学習に取り組む生徒の割合が60%以下となりました。必要感や目的意識を持って家庭学習に取り組む意識を持たせましょう。

～家庭学習のPDCAサイクルを自ら回せるようにサポートしましょう～

中学校学習指導要領総則解説編では、「小・中学校を通して学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題である」と示されています。家庭と連携を図りながら、児童生徒の発達の段階に応じて、目標や学習計画の立て方や学び方等について示すなど、児童生徒が自ら学び続けることができるように支援していきましょう。

家庭学習に取り組む様子

理科の授業で実験した水の蒸発の仕方をもっと詳しく調べてみよう。



川がある地域や海が近い地域は、雲が多いのかな。スライドでまとめてみよう。



大好きな理科の学習が続いていますね。天気や季節によって違いがあるのか調べてみるのもおもしろそうですね。



もっと知りたい！次はこれを勉強しよう！



P 目標と計画

- 課題設定
- 学習計画の作成

D 実行する

- 学習方法の選択

C 振り返る

- 今日の目標・到達

A 次に生かす

- 学習方法の見直し
- フィードバック

教師の働き掛け 例

- ・「興味・関心のあるものは何ですか。調べたいことを課題にしてみよう」
- ・「短期的・長期的な目標を立ててみよう」
- ・「目標に向けて必要な学習時間を考えてみよう」
- ・「『やることリスト』をつくってみたいだろうか」
- ・「3つのコースのプリントを準備しました。自分で選択して取り組んでみよう」
- ・「教科書の内容を、インターネットでより詳しく調べてみよう」
- ・「まとめ方は、ノートでもスライドでもかまいません」
- ・「その日の学習で学んだこと等をノートに書き留めてみよう」
- ・「お家の人に理解したことを伝えてみよう」
- ・「理解したか、他の問題を解いて確認してみよう」
- ・「『やることリスト』の項目をチェックしてみよう」
- ・「時折、短期的目標が自分に適しているか、見直すことが大切です。その時は長期的目標も修正する必要があるか確認しよう」
- ・「勉強する場所、時間帯、やり方を見直してみよう」
- ・「達成したことをお家の人や友達と話し合っ、アドバイスし合うのはどうだろう」



- ☆ 家庭学習に取り組む過程や努力を具体的にほめましょう。
- ☆ 教員間や家庭と連携し、児童生徒の成長や変容を共有しましょう。



宮城県教育委員会
みやぎ こどものまなびサポート

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gikyoku/manabisp.html>